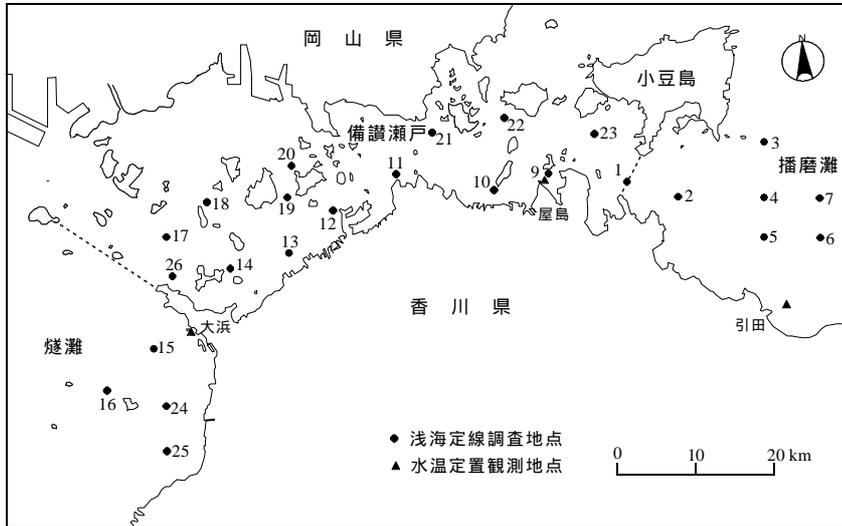


香川県漁海況速報 平成18年 4月 (H18-1号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年 4月 5日 (播磨灘) 4日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「著しく低めからやや低め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	9.8	9.6	9.2	32.7	32.9	33.0	7.0	6.00	5.91
	平年値	10.5	10.1	9.8	32.4	32.5	32.6	8.6	6.45	6.17
	平年偏差	-0.6	-0.5	-0.6	0.3	0.4	0.4	-1.6	-0.45	-0.26
	状況	やや低め	平年並み	やや低め	平年並み	やや高め	やや高め	やや低め	かなり低め	やや低め
備讃瀬戸	14地点平均値	10.2	10.1	10.1	32.9	32.9	32.9	5.5	5.85	5.79
	平年値	10.6	10.5	10.5	32.6	32.7	32.7	5.6	6.21	6.18
	平年偏差	-0.4	-0.4	-0.4	0.2	0.2	0.2	-0.1	-0.36	-0.39
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	著しく低め	著しく低め
燧灘	4地点平均値	11.6	10.4	10.3	33.3	33.5	33.5	6.6	5.66	5.49
	平年値	11.7	10.7	10.5	32.9	33.1	33.1	8.4	6.29	5.94
	平年偏差	-0.1	-0.3	-0.1	0.4	0.4	0.4	-1.8	-0.63	-0.45
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	著しく低め	かなり低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

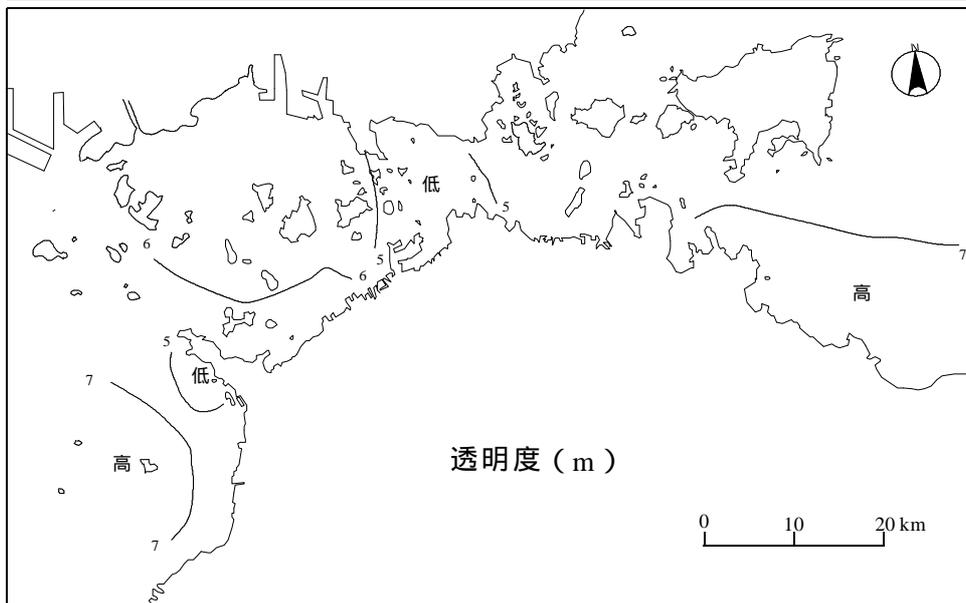
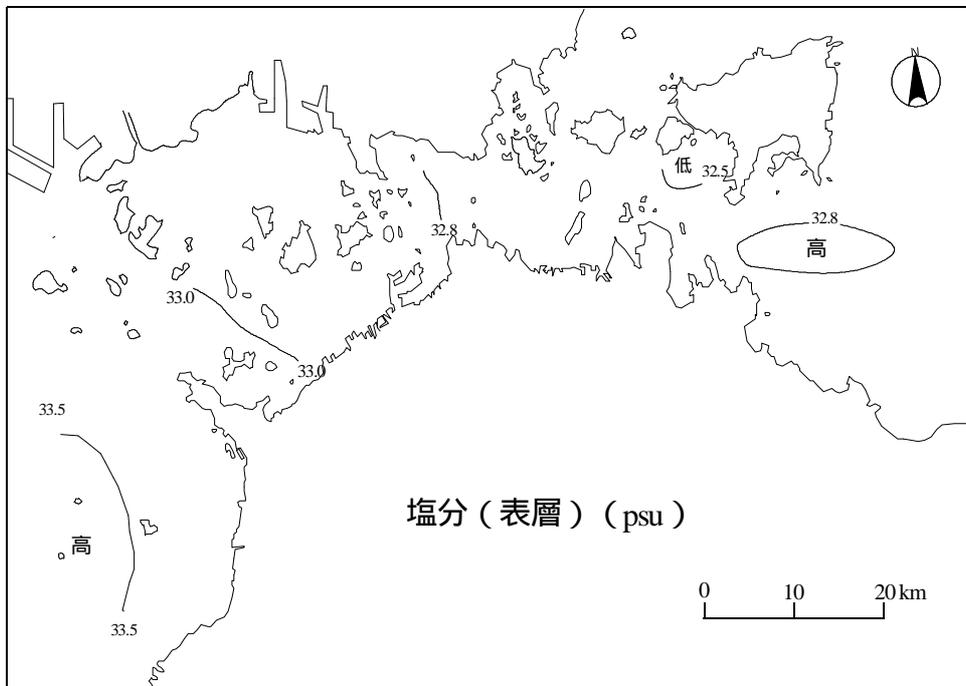
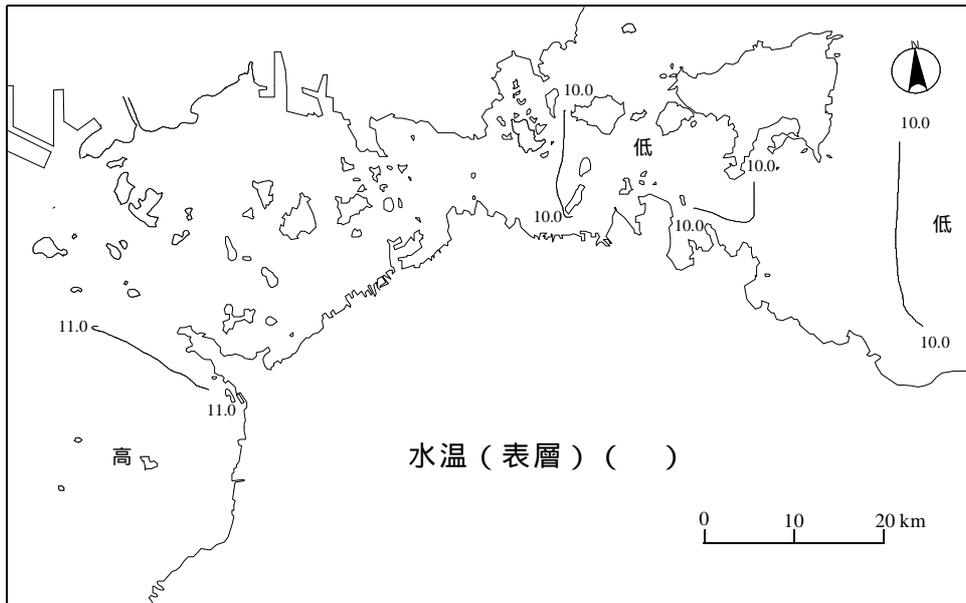
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



2) 定置観測(水温)

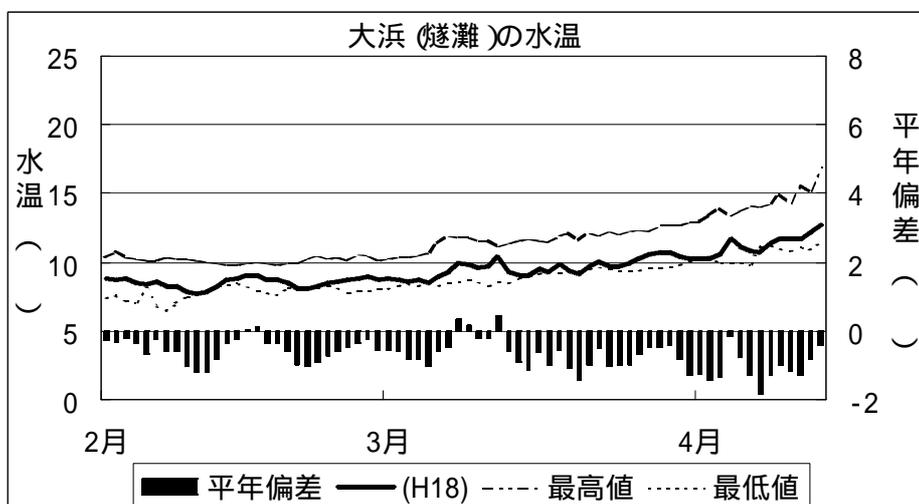
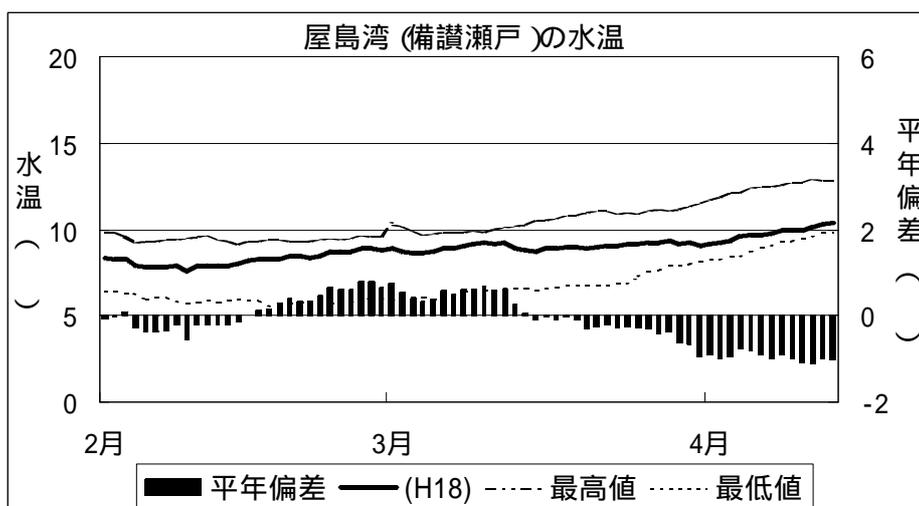
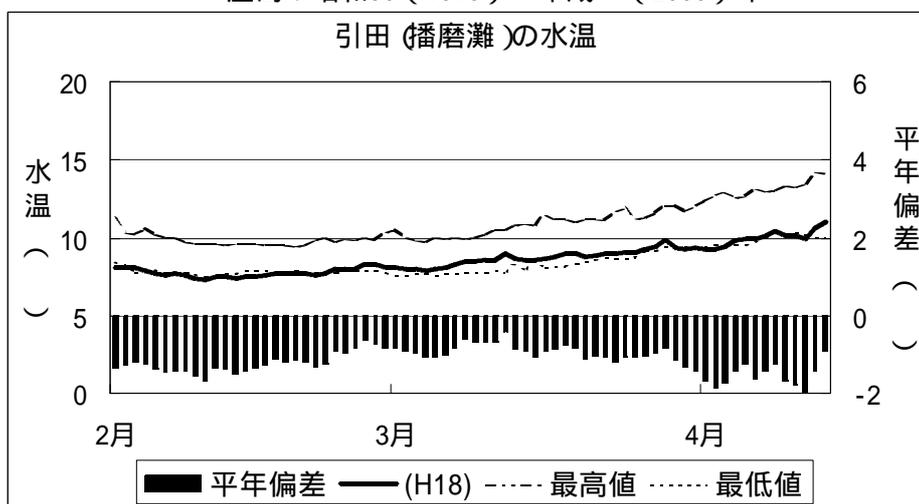
播磨灘(引田): 3月上旬には平年偏差が-0.8 前後で推移していたが、中旬から低下し-1.1 前後で推移、4月上旬に入ると-1.7 前後で推移している。

備讃瀬戸(屋島): 3月中旬までは平年偏差が0.7 前後で推移していたが、中旬からマイナスとなり、4月上旬には-1.0 前後で推移している。

燧灘(大浜): 2月、3月に掛けて、平年値前後から平年偏差が-1.3 前後の間で変動を繰り返し、3月中旬から4月上旬には-1.3 前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年

屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：4月上旬、局所的に *Eucampia zodiacus* による赤潮の発生が確認された。

燧灘：4月7日、4箇所で筋状のノクチルカ赤潮の発生が確認された。

4) 卵稚仔

調査日：平成18年4月5日（播磨灘） 4日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05
燧灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
総平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	-	-	-	-
備讃瀬戸平均	-	-	-	-
燧灘平均	-	-	-	-
総平均	-	-	-	-

- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現量はなかった。

2. 漁況

3月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類、マコガレイ、タマガンゾウピラメ、アカガイ、トリガイが漁獲されているが、クラゲが多く、全般的に低調である。</p> <p>桁網では、スズキ、クロダイ、マダイが漁獲され始めたが、前年に比べて漁獲量は少ない。</p> <p>サワラ流しさし網は4月20日から操業開始。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、イイダコが漁獲されている。</p> <p>中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は4月20日で漁期終了。漁獲量は前年を上回ったが、生産額は魚価が安かったため前年を下回った。</p> <p>高松及び庵治沖のイカナゴ込網の3月の漁獲量はフルセ604トン、シンコ296トンの計900トンで、豊漁であった前年をやや下回った。</p>

燧 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、小エビ類、ネズツポ類が漁獲されている。</p> <p>桁網は3月15日から漁期が始まり、主にウマズラハギ、マダイ、スズキ、ヒラメ、クロダイが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>さより機船船びき網は4月10日から漁期が始まり、漁獲の主体は小型魚で漁期当初の漁獲量は70kg/日・隻前後と前年同様低調であった。</p>
--------	---